

2023年(令和5年)
9月21日 木曜日
第1925号

京都自動車新聞



京ト協 公明党府本部と懇談
来月からOBD検査プレ運用
カローラ京都がシェアサイクル
中古車の総額表示が来月開始
◀ロータスがプロジェクト研修

2
5
6
7
8

発行所 京都自動車新聞社 京都市伏見区竹田向代町 51-5 (京都自動車会館内) 電話 (075) 672-0552 ファクス (075) 682-0205 メール access@kyotojidoshha-np.jp https://kyotojidoshha-np.jp

文科省 ◆ 専門校でリモート授業導入

文部科学省は、専門学校のカリキュラムにリモート授業を取り入れる施策に力を入れている。遠隔でも通常の授業と同等以上に教育的効果を高める質の高い教材や教育方法を検討し、最新のスキルを身につけた人材育成をしやすい環境を整備する。全国で15の団体・専門学校にカリキュラム作成などを依頼している。

事業は2021年度から開始し、26年度までにカリキュラムなどを整備する。産業界や行政を交え、最新の技術開発動向や活用事例の知見をリモート教材に盛り込む。成果物は全国の専門学校に共有し、今後の人材育成に役立てられる。

専門学校の遠隔教育は、コロナ禍での特例措置で導入。国はデジタル時代にふさわしい仕組みとして、教育現場でのICT(情報通信技術)活用を決定。リモートでも学べるカリキュラムの一層の充実を目指し、具体的な検討を進めてきた。

現場のノウハウ次世代の担い手に

ZIPAN WORKS 日本工科校と車体整備士育成へ教材作成

同校でカリキュラムの作成を担当するカスタム工学科の松田智志学科長

実践的な教材づくり



左から順に松田学科長、所社長、稲垣副部長

教材作成は文部科学省一の「専修学校遠隔教育導入モデル構築プロジェクト」の一環。最新の情報を反映させやすく、いつでも学習可能なオンライン教材の特性を生かし、質の高い職業教育を提供する。成果物を基に、社会や企業のニーズに則した実践的な職業人材の輩出を目指している。プロジェクトに参加している学校15校のうち、自動車分野の専門学校は同校のみ。同校はプロジェクトのうち、「板金・塗装技術習得のための遠隔教育実践モデル事業」を受託。

現場で培った知見を専門学校のカリキュラムに反映。ネットヨタ京都グループの㈱ZIPAN WORKS(右京区、所龍作社長)は日本工科大学校と連携し、車体整備士育成に向けたウェブ教材作成に取り組んでいる。学生が学びやすい教科書を作り、新たな人材を業界に呼び込む考えだ。同社副部長で教材作成に携わる稲垣基司氏は「実践的なノウハウを話めこみたい」と意気込む。教材は2023年度内の完成を目指す。成果は授業だけでなく、国の教育施策へ生かされる。

新たな人材業界に呼び込む

通常の板金塗装の授業をカバーする補助教材を作成し、学生が現場に出てもすぐに使える実践的なスキルを身につけてもらう。

コロナの経験糧に新たな学習環境を

同校がモデル事業を受託したのは、コロナ禍でのリモート授業の経験が大きい。学生が通学できない状況でも、実技・実習内容を発信し続けた。新たにウェブ上での学習をサポートする教材を整備することで、安定的な学習環境を構築する。

カリキュラムの作成は21年度からスタート。教科書の内容を補助するために最新の車体整備に関する知見を盛り込む。構造や点検、修理など各分野の内容を充実させ、現場の実態に合った学習の支援に努める方針。

併せてCGや動画を使って、実践的なノウハウを分かりやすく伝えるようにする。各カリキュラムの作成作業には、同校の関係者以外にもCGやゲーム制作の技術者など、7・10人のエキスパートが携わっている。稲垣氏は、自



教材はCGを活用して分かりやすく学べる

動車整備士に必要なスキルなどを助言する専門家の一人として参加している。ワンチームで取り組む、ノウハウはもろろん、分かりやすさや最新の情報を提供する。23年度内に自動車整備士の資格取得に必要な各分野のオンライン教材を成果物としてまとめ、文科省に提出する。作成した電子カリキュラムは実際に同校の授業でも活用していく。学生たちの円滑な学習に役立ててもらおう考えた。

教育の現場に地域の知見を

同社は教材づくりに当初から参加。委員として参加する稲垣氏は「従来のカリキュラムは取り上げる車の車種が古いなど、今の学生に伝わり

は「オンライン教材のメリットやデメリットなどを検証し、通常の授業と組み合わせたハイブリッドなカリキュラムを最大成としてまとめたい」と思いを語る。同校のカリキュラム作成は1年目に車体の材料や加工方法、金属や樹脂特性などをまとめた。

2年目は車体破損時に起きるエネルギーの波及状況などのカリキュラムを作成し、今年度は損傷診断や板金塗装の技術をまとめる総仕上げに入った。作成した教材は実際に学生に使ってもらって意見を募り、改善点を洗い出して反映していく。

最後に松田学科長は「オンライン教材で習熟度の差が少なくなれば、新たな人材が業界に興味を持ってもらいやすくなる」と成果に期待を寄せる。



タブレットで遠隔でも学習できる環境を整えた

稲垣氏は「技術の基本を知っている人が入ってくれば、現場としては大

*「追跡データベース」日銀京都支店編「休みました。」